

## 2020年度 第2回 阪大本番レベル模試 国語(文) 採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。  
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。  
b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。  
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

Ⅰ 現代文（評論）採点基準（合計40点）

問一 10点

（模範解答例）

B①○1点

B②○1点

「努力してもしかたない」という 厳然たる壁がありながら、

C①○1点

C②○1点

「努力すればナントカなる」という 期待を膨らませるしくみがあることで、

A○1点

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉○1点

社会の支配的な立場にある人たちは、

D①○1点

D②○1点

メリトクラシーの原理原則を隠れ蓑にして、社会的地位や経済格差を世代を越えて親

Y〈分析〓分けること〉○1点

から子へと受け継がせることができるから。

Z〈総合〓まとめること〉○1点（10点）

【構造点】

・Xは、傍線部を説明するための主体の条件Aを、〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明する  
〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件Aがあり、また条件B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A+Bの要素+Cの要素 ○1点

・Yは、条件D内を、〈因果関係〉をなす、〈矛盾〉しない二要素D①とD②と〈分析〓分けること〉する構造への評価である。ここでは、D①、D②がそろっていれば、この構造が成立していると判断して1点加点。

Y (分析Ⅱ分けること) D①+D② 〇1点

・Zは、B、CをDに(総合Ⅱまとめること)する構造への評価である。ここでは、条件B、C、Dの要素がそれぞれひとつ以上入っていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Z (総合Ⅱまとめること) Bの要素+Cの要素+Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士で、また条件B、C、D内では要素同士でも、原則的に部分採点可能。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した、条件と要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(3点満点)

B 『努力してもしかたない』という厳然たる壁がありながら、(2点)

※ 傍線部を説明するべく、Aの行為を説明する一方の条件。

① 『努力してもしかたない』という「の要素に1点。

○ 「努力しても報われないという」「努力しても無駄だという」などでも可。

× 『努力してもしかたない』の成分が入っていなければ×0点。

② 「厳然たる壁がありながら、」の要素に1点。

○ 「厳しい壁があるものの、」「立ちはだかる壁があっても」などでも可。

× 「壁」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

C 『努力すればナントカなる』という期待を膨らませるしくみがあることで、(2

点) ※ 傍線部を説明するべく、Aの行為を説明する、Bとは(矛盾)する他方の条件。

① 『努力すればナントカなる』という「の要素に1点。

- 「努力があればどうにかなる」「努力があれば乗り越えられる」などでも可。
- × 『『努力すればナントカなる』のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ② 「期待を膨らませるしくみがあることで、「」の要素に1点。
- 「期待をもたせる仕組みがあるために、「」期待させるメカニズムがあること  
で、「」などでも可。
- × 「期待を膨らませるしくみ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- A 「社会の支配的な立場にある人たちは、「」(1点)
- ※ B、Cを利用する「主体」の条件。
- 「社会の支配層は、「」社会を支配している人々は、「」などでも可。
- × 「社会の支配的な立場にある人たち」のニュアンスの成分が入っていないければ×  
0点
- D 「メリトクラシーの原理原則を隠れ蓑にして、社会的地位や経済格差を世代を越え  
て親から子へと受け継がせることができるから。」(2点) ※ B、Cをまとめて結論  
づける条件。
- ① 「メリトクラシーの原理原則を隠れ蓑にして、「」の要素に1点。
- 「メリトクラシーの原理原則の陰に隠れて、「」成果主義の原理原則の裏側で」など  
でも可。
- × 「メリトクラシーの裏側で」の成分が入っていないければ×0点。
- ② 「社会的地位や経済格差を世代を越えて親から子へと受け継がせることができるか  
ら。」の要素に1点。
- 「地位や経済格差を世襲によって親から子に継承させることができるから。」「社会  
的、経済的地位を世代を超えて受け継がせることができるから。」などでも可。
- × 「社会的地位や経済格差の世襲」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問二 10点

(模範解答例)

A ○ 1点

自己選択、自己責任の原理原則について、

B ① ○ 1点

B ② ○ 1点

B ③ ○ 1点

西洋近代では、

国家が構成員全員の福祉を確保すべきであり、

個人の自己責任の

乱用は国家の無責任論につながるとされるが、

C ① ○ 1点

C ② ○ 1点

C ③ ○ 1点

日本では、

国家の責任が問われることなく、

何でも自分で選んだのだから自己

責

C ④ ○ 1点

任だとされ、

困難に陥った人々に対して冷酷な態度をとりがちなこと。

X へ分析Ⅱ分けること〇1点 Y へ逆説Ⅱ矛盾を含むこと〇1点 (10点)

【構造点】

・ Xは、条件C内部で日本における状況を、〈因果分析〉の形で説明する構造への評価である。C①の要素を、〈C②＋C③〉とC④の〈因果関係〉をなす二部分に〈分析Ⅱ分けること〉する構造である。ここではC①があり、〈C②、C③のいずれか〉とC④がそろっていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X へ分析Ⅱ分けること〇 C①＋〈C②、C③のいずれか〉＋C④ ○ 1点

・ Yは、傍線部を説明すべく、条件Aを、〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明して行く、〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件Aと、条件B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y（逆説＝矛盾を含むこと） A+Bの要素+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件B、C内では要素同士においても、原則的に部分採点可能。（8点満点）

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。（2点満点）

A 「自己選択、自己責任の原理原則について、」（1点）

※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。

○ 「自己選択と自己責任の原則について、」「自己選択および自己責任の原理について、」などでも可。どちらか一方についての言及があれば許容

× 「（自己選択、）自己責任」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

B 「西洋近代では、国家が構成員全員の福祉を確保すべきであり、個人の自己責任の乱用は国家の無責任論につながるとされるが、」（3点）

※ Aを説明する一方の内容。「西洋近代」の事情。

① 「西洋近代では、」の要素に1点。

○ 「西欧近代では、」「西洋に近代においては、」

× 「西洋近代」の成分が入っていないならば×0点。

② 「国家が構成員全員の福祉を確保すべきであり、」ことが「の要素に1点。

○ 「国家が国民全員の福祉を確保することが国家の存在根拠であり、」「国家が構成員全員のしあわせを確保することが原則であり、」などでも可。

× 「国家が」がなければ×。また、「国家が構成員全員の福祉を確保」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

③ 「個人の自己責任の乱用は国家の無責任論につながる」とされるが、「」の要素に1点。

○ 「個人の自己責任の乱用は国家の無責任としていましめられるが」、「個人の自己責任の乱用は国家の無責任論として非難されるが」、「などでも可。

× 「個人の自己責任の乱用」「国家の無責任論」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

C 「日本では、国家の責任が問われることなく、何でも自分で選んだのだから自己責任だとされ、困難に陥った人々に対して冷酷な態度をとりがちなこと。」(4点)

※ Aを説明する、Bとは〈矛盾〉する他方の内容。「日本の」事情。

① 「日本では、「」の要素に1点。

○ 「日本においては、「」日本の場合は、「」などでも可。

× 「日本」の成分が入っていないければ×0点。

② 「国家の責任が問われることなく、「」の要素に1点。

○ 「国家の責任が問われぬままに」、「国家の責任が語られぬままに」、「などでも可。

× 「国家の責任の否定」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「何でも自分で選んだのだから自己責任だとされ、「」の要素に1点。

○ 「なにが起こっても自分が選んだことなのだから自己責任だと断じ、「」自分で選んだ以上は自己責任だとされ、「」などでも可。

× 「自己選択だから自己責任」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

④ 「困難に陥った人々に対して冷酷な態度をとりがちなこと。」の要素に1点。

○ 「困難な状況に置かれた人々に対する冷酷な態度を許してしまうこと。」「窮状にある人々に冷酷な態度を示しがちなこと。」などでも可。

× 「困難に陥った人々に対する冷酷な態度」のニュアンスの成分が入っていない  
ば× 0点。



問三 10点

(模範解答例)

A○1点

選抜試験は、

B①○1点

B②○1点

少数の勝者と多数の敗者を産み、敗者に残酷に作用する一方で、

C①○1点

C②○1点

他のやり方、別の機会なら勝者になれたかもしれない、また結果的に勝者より恵まれ

C③○1点

ているのかもしれない、などと敗者に勝者との壁を、日常生活で意識させない、

C④○1点

X〈逆説⇖矛盾を含むこと〉○1点

またはその厚さを薄く感じさせる、

D○1点

Y〈総合⇖まとめること〉○1点

というしくみを持つものである。(10点)

【構造点】

・Xは、傍線部⇖条件Aを、条件B、Cの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する〈逆説⇖矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件Aと、条件B、Cの要素あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。ただし、この場合、条件Aは設問中にあるので、解答中になくとも、構造は成立すると考えて1転加点(ただし内容点での加点はない)。

X〈逆説⇖矛盾を含むこと〉 (A) + Bの要素 + Cの要素 ○1点

・Yは、条件B、Cを、条件Dに〈総合⇖まとめること〉してゆく構造への評価である。ここでは、条件B、Cの要素がそれぞれ一つ以上と、条件があれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加点。

Y〈総合⇖まとめること〉 Bの要素 + Cの要素 + D ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士、また条件B、C内でも要素同士において、原則的に部分採点可能。(8点満点)

※ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「選抜試験は、」(1点)

※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。

× 「選抜試験」成分が入っていないければ×0点。

B 「少数の勝者と多数の敗者を産み、敗者に残酷に作用する一方で、」(2点)

※ 傍線部「Aを説明するための一方の条件。

① 「少数の勝者と多数の敗者を産み、」の要素に1点。

○ 「少数の勝者と多数の敗者をつくりだし、」「ほんの一部の勝者と大多数の敗者を産み出し、」などでも可。

× 単に「勝者と敗者」など、「少数の勝者と多数の敗者」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「敗者に残酷に作用する一方で、」の要素に1点。

○ 「敗者にとって冷酷なくみである一方で、」「敗者にとって厳しい制度であるが、」などでも可。

× 「敗者に残酷に作用する」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「他のやり方、別の機会なら勝者になれたかもしれない、また結果的に勝者より恵まれているのかもしれない、などと敗者に勝者との壁を、日常生活で意識させない、またはその厚さを薄く感じさせる、」(4点)

※傍線部「A」を説明するための、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

- ① 「他のやり方、別の機会なら勝者になれたかもしれない、」の要素に1点。  
○ 「他の方法、別のチャンスなら勝てたかも知れない」「違うやり方、違う日程なら勝者になれたかもしれない」などでも可。

× 「他のやり方、別の機会なら勝者」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

- ② 「また結果的に勝者より恵まれているのかもしれない、」の要素に1点。

○ 「また結果を考えれば勝者より恵まれているのかもしれない」「また結果を見れば負けて返ってよかったのかもしれない」などでも可。

× 「結果的に勝者より恵まれている」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

- ③ 「などと敗者に勝者との壁を、日常生活で意識させない、」の要素に1点。

○ 「などと勝者と敗者の壁を、日常生活で意識しないですむようにさせたり、」「などと日常生活では、勝者との壁を敗者に意識させない、」などでも可。

× 「敗者に勝者との壁を、日常生活で意識させない」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

- ④ 「またはその厚さを薄く感じさせる、」の要素に1点。

○ 「あるいはその壁の厚さを薄く思わせる、」「またその厚さを薄いと思ひ込ませる」などでも可。

× 「その（＝壁）厚さを薄く感じさせる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

D 「D」というしくみを持つものである。」の要素に1点。

※ B、Cをまとめる条件。

○ 「しくみを持つ制度である。」「というしくみのものである。」などでも可。

× 「しくみ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問四 10点

(模範解答例)

A ○1点

日本社会では、

B ○1点

圧倒的多数の敗者たちに敗者であることを自覚させず、

C ①○1点

C ②○1点

またそう自覚している人には、外見上勝者のふりを可能とさせる

X 〈分析Ⅱ分けること〉○1点

D ①○1点

D ②○1点

D ③○1点

しくみが働いて、総中流意識を醸しだし、競争のもたらす格差を日常生活では意識

D ④○1点

させずに、敗者たちの勤労意欲と社会の安定を維持するのに役立つというこ  
と。

Y 〈総合Ⅱまとめること〉○1点 (10点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明すべく、条件Aを、条件B、Cの〈矛盾〉しない二条件に〈分析Ⅱ分けること〉  
して行く構造への評価である。ここでは、条件A、Bがあり、条件Cの要素が一つ以上あれば、この  
構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算

X 〈分析Ⅱ分けること〉 A+B+Cの要素 ○1点

・ Yは、条件B、Cを、条件Dに〈総合Ⅱまとめること〉して行く構造への評価である。ここでは、条  
件Bと、条件C、Dの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立しているとみな  
して1点加算。

Y 〈総合Ⅱまとめること〉 B+Cの要素+Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士、また条件C、D内でも要素同士において、原則的に部分採点可能。(8点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「日本社会では、」(1点)

※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。

× 「日本社会」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

B 「圧倒的多数の敗者たちに敗者であることを自覚させず、」(1点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく一方の条件。

○ 「大多数の敗者たちを、自分たちが敗者であることを自覚させないような、」「圧倒的多数の敗者たちに敗者であるとは思わせない、」などでも可。

× 「圧倒的多数の敗者」「敗者の自覚の否定」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

C 「またそう自覚している人には、外見上勝者のふりを可能とさせる」(2点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件。

① 「またそう自覚している人には、」の要素に1点。

○ 「また敗者であると自覚している人には、」「またそう自認している人には、」などでも可。

× 「敗者であることを自覚している人」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「外見上勝者のふりを可能とさせる」の要素に1点。

○ 「見た目の上では勝者であるふりをさせうる」「勝者の外観を装うことを可能とする」などでも可。

D 「しくみが働いて、総中流意識を醸しだし、競争のもたらす格差を日常生活では意識させずに、敗者たちの勤労意欲と社会の安定を維持するのに役立っているという」と。(4点)

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「しくみが働いて、」の要素に1点。

○ 「仕組みが機能して、」「メカニズムが稼働して、」などでも可。

× 「しくみが働く」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「総中流意識を醸しだし、」の要素に1点。

○ 「総中流意識に包み込み、」「総中流意識を抱かせ、」などでも可。

× 「総中流意識」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

③ 「競争のもたらす格差を日常生活では意識させずに、」の要素に1点。

○ 「競争の結果である格差を日常生活では気づかせずに、」「日常生活では競争の帰結としての格差に捕われないように、」などでも可。

× 単に「格差」としたものは×。競争により生じたものであることを示していなければならぬ。また、「競争の結果である格差」「日常生活では気づかせない」のニュアンスの二成分がそろっていなければ×0点。

④ 「敗者たちの勤労意欲と社会の安定を維持するのに役立っているということ。」「の要素に1点。

○ 「敗者たちの勤労意欲と社会の安寧を保つのに訳だっているということ。」「敗者たちに勤労意欲をもたせ、社会の安全を維持するのに貢献していること。」などでも可。

× 「敗者たちに勤労意欲を持たせる」「社会の安定を維持する」「役立っている」のニュアンスの三成分がそろっていなければ×0点。

㊦ 現代文（小説）採点基準（合計 35 点）

問一 9 点

（模範解答例）

A ①○1 点

A ②○1 点

種すべりで同乗している麗ちゃんが 怖ろしさのあまり瞳を閉じて、身も世もあら

A ③○1 点

ぬ悲しさといった顔つきでいるのが 滑稽に見えたので、

B ①○1 点

B ②○1 点

さらに「麗ちゃん、わたし麗ちゃんが好きよ」とそっと囁いて 驚かせてみたが、

X 〈分析Ⅱ分けること〉○1 点

C ①○1 点

わたしではないかと少し疑っている麗ちゃんに、

C ②○1 点

自分が声の主だと知られては面白

Y 〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉○1 点

くないと思ったから。（9 点）

【構造点】

・ X は、傍線部の理由説明の一部をすべく、〈因果関係〉にある二条件 A、B に分析Ⅱ分けることして説明して行く構造への評価である。ここでは、条件 A、B の要素がそれぞれ一つ以上入っているならば、この構造の骨組みは成立しているとみなして 1 点加点。

X 〈分析Ⅱ分けること〉 A の要素 + B の要素 ○1 点

・Yは、傍線部の理由説明をすべく、〈A+B〉とCの〈矛盾〉する二部分に引き裂いてゆく、〈逆説Ⅱ 矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、A、B、Cの要素がそれぞれひとつ以上入って いれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加點。

Y〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素+Cの要素 ○1点

◎採點のポイント

※A、B、Cは条件同士、また各条件内でも要素同士において、原則的に部分採點可能。(7点満點)

※ただし、【構造點】X・Yは、右に示した、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加點する。(2点満點)

A 「橇滑りで同乗している麗ちゃんが怖ろしさのあまり瞳を閉じて、身も世もあらぬ悲しさといった顔つきでいるのが滑稽に見えたので、」(3点)

※傍線部の理由説明をするための一方の部分の、〈因果関係〉を構成する

〈因〉の条件。

① 「橇滑りで同乗している麗ちゃんが」の要素に1点。

○ 「橇すべりの相手である麗ちゃんが」「一緒に橇にすべりをしている麗ちゃんが」などでも可。

× 「橇滑りで同乗している」、「麗ちゃん」のニュアンスの成分がそろって入っていないければ×0点。

② 「怖ろしさのあまり瞳を閉じて、身も世もあらぬ悲しさといった顔つきでいるのが」の要素に1点。

○ 「怖ろしさの余り目を閉じて何も考えることができない悲しさといった表情なのが」「怖ろしすぎて目をあけられず、自分のことも世間のことも考えられぬという悲しさといった顔つきであるのが」などでも可。



× 「怖ろしさのあまり」「身も世もあらぬ悲しさといった顔つき」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

③ 「滑稽に見えたので、」の要素に1点。

○ 「面白かったので、」「滑稽だったので」などでも可。

× 「滑稽」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「さらに『麗ちゃん、わたし麗ちゃんが好きよ』とそっと囁いて驚かせてみたが、」(2点)

※傍線部の理由説明をするための一方の部分の、〈因果関係〉を構成する〈果〉の条件。

① 「さらに『麗ちゃん、わたし麗ちゃんが好きよ』とそっと囁いて」の要素に1点。

○ 「さらに麗ちゃんのが好きよと囁きかけて」「さらにわたし麗ちゃんのが好きよとつぶやいて」などでも可。

× 『麗ちゃん、わたし麗ちゃんが好きよ』と囁く』のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。 台詞への言及がなく、「囁く」のみでは×。

② 「驚かせてみたが、」の要素に1点。

○ 「びっくりさせてみたが、」「愕然とさせたが、」などでも可。

× 「驚かす」ニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「わたしではないかと少し疑っている麗ちゃんに、自分が声の主だと知られては面白くないと思ったから。」(2点)

※傍線部の理由説明をするための、〈A+B〉とは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「わたしではないかと少し疑っている麗ちゃんに、」の要素に1点。

○ 「わたしのことを少し疑っている麗ちゃんに、」「わたしをやや疑いの目でみている麗ちゃんに、」などでも可。

× 「わたしを少し疑っている麗ちゃん」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「自分が声の主だと知られては面白くないと思ったから。」の要素に1点。

○ 「声の主が自分と分かってしまっってはつまらないから。」 「自分だと分かってしまったら面白さがなくなるから。」 などでも可。

× 「自分が声の主だと分かってしまう」「面白さの否定」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

問二 10点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

美智子のお兄さまが橇滑りの遊びの場面から立ち去る行動を滑稽なものにすると同時に、

B①○1点

B②○1点

ひらがなと漢字の文章に、カタカナと漢字の一文を挿入して 異質な感じを出し、

B③○1点

X (分析||分けること) ○1点

しかも文字だけで人物の存在を消去することで、

B④○1点

B⑤○1点

お兄さまを物語から退場させ、 後を美智子と麗ちゃんの心理劇へと進ませる標識となる効果。(10点)

Y (総合||まとめること) ○1点

Z (分析||分けること) ○1点

【構造点】

・Xは、条件B内部で、B①を、B②とB③の〈矛盾〉しない二要素に〈分析||分けること〉してせ  
つめいしてゆく構造への評価である。ここでは、B①、B②、B③がそろっていれば、この構造が  
成立しているとみて1点加算。

X (分析||分けること) B①+B②+B③ ○1点

・Yは、B②、B③を、〈B④+B⑤〉に〈総合||まとめること〉する構造への評価である。ここで  
は、B②、B③と、〈B④、B⑤のいずれか〉がそろっていれば、この構造の骨組みが成立している  
とみなして1点加算。

Y (総合||まとめること) B②+B③+〈B④、B⑤のいずれか〉 ○1点

・Zは、傍線部を、条件A、Bの〈矛盾〉しない二条件に〈分析Ⅱ分けること〉して説明してゆく構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれひとつ以上入っていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Z 〈分析Ⅱ分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士において、また各条件内では要素同士においても、原則的に部分採点可能。(7点満点)

※ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(3点満点)

A 「美智子のお兄さまが橇滑りの遊びの場面から立ち去る行動を滑稽なものにすると同じに、」(2点)

※ 傍線部の表現効果を説明するための一方の条件。

① 「美智子のお兄さまが橇滑りの遊びの場面から立ち去る行動を」の要素に1点。

○ 「美智子のお兄さまが橇遊びの場面から退場する行動を」「美智子のお兄さまが橇遊びの斜面から退く行動を」などでも可。

× 「美智子のお兄さまが橇滑りの遊びの場面から退場」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「滑稽なものにすると同時に、」の要素に1点。

○ 「面白みのあるものにするのとともに、」「おかしみのあるものとする一方で、」などでも可。

× 「滑稽味」の成分が入っていないければ×0点。

B 「ひらがなと漢字の文章に、カタカナと漢字の一文を挿入して異質な感じを出し、しかも文字だけで人物の存在を消去することで、お兄さまを物語から退場させ、後を美智

子と麗ちゃんの心理劇へと進ませる標識となる効果。」(5点) ※傍線部の表現効果を説明するための他方の条件。

- ① 「ひらがなと漢字の文章に、カタカナと漢字の一文を挿入して」の要素に1点。
- 「ひらがなと漢字で書かれた文脈に、カタカナと漢字の一文を挿入して」「ひらがなと漢字での展開の中に、カタカナと漢字の一文を差し込んで」などでも可。
- × 「ひらがなと漢字の文にカタカナと漢字の一文の挿入」ニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ② 「異質な感じを出し、」の要素に1点。
- 「違和感を醸しだし、」「不連続感を感じさせ、」などでも可。
- × 「異質な感じの醸しだし」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ③ 「しかも文字だけで人物の存在を消去することで、」の要素に1点。
- 「しかも人物の退去を語るのに文字の痕跡だけにとどめ、」「書かれた文字だけがあり、人物の退場自体が描写されることがなく、」などでも可。
- × 「文字だけ」「人物(お兄さま)の退場行動は描写されない」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。
- ④ 「お兄さまを物語から退場させ、」の要素に1点。
- 「お兄さまを物語から退かせ、」「お兄さまの存在を物語から抜き去って、」などでも可。
- × 「お兄さまの物語からの退場」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ⑤ 「後を美智子と麗ちゃんの心理劇へと進ませる標識となる効果。」の要素に1点。
- 「後ろを美智子と麗ちゃんの心理が交錯するドラマへと転換する標識となる効果。」「後半を美智子と麗ちゃんの心の交流に重点を置く展開へと進ませる境界線としての効果。」などでも可。
- × 「美智子と麗ちゃんの心理劇への展開」「標識としての効果」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

問三 8点

(模範解答例)

A①○1点

離れ島育ちの麗ちゃんが、誰でも人がなつかしく、人に愛してもらいたがっているの

A②○1点

を知っているため、「わたし、あなたが大好きよ。」と囁く言葉を聞きたがるのを

A③○1点

満足させてあげたい気持ちの一方で、

B①○1点

B②○1点

その言葉を聞いた麗ちゃんが不思議に思っつて声の正体を探し回るのを 面白がる気持ちも

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点

C○1点 Y 〈総合〓まとめること〉 ○1点

入り混じった心理。(8点)

【構造点】

・Xは、傍線部における美智子の心理を、〈矛盾〉する二条件A、B条件に引き裂いて説明して行く、

〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上

あれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加点。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

・Yは、条件A、Bを、条件Cに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここではA、Bの

要素がそれぞれ一つ以上あり、加えて条件Cがあれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1

点加点。

Y 〈総合〓まとめること〉 Aの要素+Bの要素+C ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件A、B内では要素同士においても、原則的に部分採点可能。(6点満点)

※ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件と要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「離れ島育ちの麗ちゃんが、誰でも人がなつかしく、人に愛してもらいたがっているのを知っているため、『わたし、あなたが大好きよ。』と囁く言葉を聞きたがるのを満足させてあげたい気持ちの一方で、」(3点)

※傍線部の心情を説明するための一方の条件。

① 「離れ島育ちの麗ちゃんが、誰でも人がなつかしく、人に愛してもらいたがっているのを知っているため、」の要素に1点。

○ 「離れ島育ちの麗ちゃんが、誰にでも人なつっこく、人に愛してもらいたがっているのを分かっているので、」「離れ島に育った麗ちゃんが、誰にでも親しみを感じ、人に愛されたがっているのを承知しているので、」などでも可。

× 「離れ島育ちの麗ちゃん」「誰でも人がなつかしい」「人に愛されたがっている」「知っている」のニュアンスの四成分がそろっていないければ×0点。

② 『わたし、あなたが大好きよ。』と囁く言葉を聞きたがるのを」の要素に1点。

○ 『わたし、あなたが大好きよ。』という囁きを聞きたがっているのを」「わたし、あなたが大好きよ。』という囁きをの主を知りたがっているのを」などでも可。

× 『わたし、あなたが大好きよ。』と囁く言葉を聞きたがる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「満足させてあげたい気持ちの一方で、」の要素に1点。

○ 「満たしてやりたい気持ちもあるが、」「応えてやりたい気持ちの一方で、」などでも可。

× 「満足させてあげたい気持ち」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「その言葉を聞いた麗ちゃんが不思議に思っ  
て声の正体を探し回るのが面白がる気  
持ちも」(2点)

※傍線部の心情を説明するための、Aとは  
(矛盾)する他方の条件。

① 「その言葉を聞いた麗ちゃんが不思議に思っ  
て声の正体を探し回るのが」の要素に1  
点。

○ 「その囁きを聞いた麗ちゃんが不思議そうに  
声の主を探し回るのが」「その言葉を  
聞いて麗ちゃんがどうしても声の正体  
を突き止めようとしているのが」  
などでも可。

× 「囁きを聞いた麗ちゃんが声の正体を探し  
回るのが」のニュアンスの成分が入って  
いなければ×0点。

② 「面白がる気持ちも」の要素に1点。

○ 「見て楽しむ気持ちも」「愉快に思  
う気持ちも」などでも可。

× 「面白がる気持ち」のニュアンスの成分  
が入っていないければ×0点。

C 「入り混じった心理。」(1点)

※A、Bの心情をまとめた条件。

○ 「混合している心理。」「混交して  
いる心理。」などでも可。

× 「入り混じった心理」のニュアンスの成分  
が入っていないければ×0点。



問四 8点

(模範解答例)

A ①○1点

美智子は、「わたし、麗ちゃんが好きよ。」とやさしく囁いた言葉で麗ちゃんが回復したので

A ②○1点

罪滅ぼしが出来たことを喜んでほっとし、

B ①○1点

麗ちゃんは、なつかしい言葉の囁き手が美智子であるのをはつきり知って、

B ②○1点      X (分析Ⅱ分けること) ○1点

涙を流すほど嬉しくなり、

C ①○1点

C ②○1点

二人そろって雪の岡を眺めながら 人間の愛を感じ合っているという気持ち。(8点)

Y (共通性の抽象による総合Ⅱ共通性を引き出してまとめること、帰納) ○1点

【構造点】

・Xは、傍線部の美智子と麗ちゃんの心情を説明するために、まずは条件A、Bの(矛盾)しない二人の心情へと(分析Ⅱ分けること)する構造への評価である。A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X (分析Ⅱ分けること) Aの要素+Bの要素 ○1点

・Yは、A、Bの心情から(共通性)を引き出してまとめていく(共通性の抽象による総合Ⅱ共通性を引き出してまとめること、帰納)の構造への評価である。ここではA、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y（共通性の抽象による総合＝共通性をひきだしてまとめること≠帰納） Aの要素＋  
Bの要素＋Cの要素 ○1点

◎採点のポイント

※A、B、Cは条件同士において、また各条件内では要素同士において、部分採点可能。（6点満点）

※ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。（2点満点）

A 「美智子は、『わたし、麗ちゃんが好きよ。』とやさしく囁いた言葉で麗ちゃんが復したので罪滅ぼしが出来たことを喜んでほっとし、」（2点）

※傍線部を説明するための一方の条件（美智子の心情）。

① 「美智子は、『麗ちゃん、わたし麗ちゃんが好きよ。』とやさしく囁いた言葉で麗ちゃんが回復したので」の要素に1点。

○ 「美智子は、『わたし、麗ちゃんが好きよ。』という囁きで麗ちゃんが元気になったので」「美智子は、『わたし、麗ちゃんが好きよ。』という囁き声で麗ちゃんが快癒していったので」などでも可。

× 「美智子の『わたし、麗ちゃんが好きよ。』の囁きで麗ちゃんが回復する」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「罪滅ぼしが出来たことを喜んでほっとし、」の要素に1点。

○ 「罪滅ぼしができてうれしくなり、」「罪滅ぼしができてほっとし、」などでも可。  
× 「罪滅ぼしができてよろこぶ」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

B 「麗ちゃんは、なつかしい言葉の囁き手が美智子であるのをはつきり知って、涙を流すほど嬉しくなり、」（2点）

※傍線部を説明するための、Aとは（矛盾）しない他方の条件（麗ちゃん的心情）。

① 「麗ちゃんは、なつかしい言葉の囁き手が美智子であるのをはつきり知って、」の要素に1点。

○ 「麗ちゃんは囁き声の主が美智子であることを確認して、「麗ちゃんはなつかしい声の囁き手が美智子であるとはつきり分かって、」などでも可。

× 「麗ちゃんが囁き声の主が美智子であることを確認する」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「涙を流すほど嬉しくなり、」の要素に1点。

○ 「涙がでるほど喜び、」「嬉しさのあまり涙を流して喜び、」などでも可。

× 「涙を流すほど喜ぶ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「二人そろって雪の岡を眺めながら人間の愛を感じ合っているという気持ち。」

(1点) ※ A、Bから〈共通〉の心情を引き出してまとめる条件。

○ 「二人並んで雪の岡を眺めながら人間の愛を共有しているという気持ち。」「夕陽に紅く映えた岡をみながら互いに人間の愛に包まれているという気持ち。」などでも可。

× 「岡を眺めながら人間の愛を共有している気持ち」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

★2020年度第2回阪大本番レベル模試(文)

(古文『胡蝶日記』)採点基準

※40点満点

問一(1) 傍線部を現代語訳しなさい。【3点】

〔該当傍線部〕 A1まだきにB1秋や立ちC1ぬらん

〔模範解答〕 A1早くもB1立秋になっC1てしまっているのだろうか

〔ポイント〕

A【1点】まだきに ↓ 早くも

※「すでに・とつくに・もう」でもよい。「まだ」は×。

B【1点】秋 ↓ 立ちぬ ↓ 立秋になってしまった

※「立秋になる」は「秋になる」でもよい。

※「〜てしまう」は「〜た・〜ってしまった」でもよい。

C【1点】やゝらん ↓ しているのだろうか

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「〜のだろうか」でもよしとする。

※疑問(〜か)がない「〜ているのだろうか・〜のだろうか」は×。

問一 (2) 傍線部を現代語訳しなさい。 【3点】

〔該当傍線部〕 A 1 昨夜 B 1 ものしたたむる C 1 にて

〔模範解答〕 A 1 昨夜は B 1 物書きをしていた C 1 ために

〔ポイント〕

A 【1点】 昨夜 ↓ 昨夜は

※ B が 0 点の場合には得点できない。ただし、誤字等で 0 点となっている場合は得点できる。

※ B の「物書き」をしていた時分示してはならない。

※ 「昨夜・昨日の夜」等でもよい。

B 【1点】 ものしたたむる ↓ 物書きをしていた

※ 「書き物をしていた」等でもよい。「者を作っていた・物を食べていた」等は×。

C 【1点】 にて ↓ ために

※ B が 0 点の場合には得点できない。ただし、誤字等で 0 点となっている場合は得点できる。

※ 「のび」でもよい。

問一 (3) 傍線部を現代語訳しなさい。【3点】

〔該当傍線部〕 A2かしらもたげB1ぬ

〔模範解答〕 A2頭を持ち上げB1た

「ポイント」

A【2点】かしらもたげ ↓ 頭を持ち上げ

※「かしら」が「かしら」のままになっている場合は×。

※「持ち上げ」は「あげ」でもよい。「もたげ」のままは×。

B【1点】ぬ ↓ た

※Aが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

問二 傍線部(ア)「・・・」とは、誰がどのようなことをしたのか、わかりやすく説明しなさい。【6点】

「該当傍線部」 唐歌に作りて

「模範解答」 A1 依かたが、B1 どうして寝てばかりいてC1 趣深い風景を見逃してしまっただろうという趣旨の、D1 作者や早田の奥様をからかうE2 漢詩を詠じた。

「ポイント」

A【1点】 依かたが、

※Dの「からかった」の意も、Eの「漢詩を詠んだ」の意も出ていない場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

B【1点】 どうして寝てばかりいて

※Dの「からかった」の意も、Eの「漢詩を詠んだ」の意も出ていない場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※漢詩の内容として「寝ている」の意があるか、からかう(笑う・馬鹿にする)理由として「寝てばかりいる」の意があればよい。

C【1点】 趣深い風景を見逃してしまったのだろうという趣旨の、

○「趣き深い」風情がある、情趣のある、心がひかれる」など同義語を幅広く許容する。

※Dの「からかった」の意も、Eの「漢詩を詠んだ」の意も出ていない場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※漢詩の内容として「趣深い風景を見逃した」の意があるか、からかう(笑う・馬鹿にする)理由として「趣深い風景を見逃した」の意があればよい。

D【1点】 作者や早田の奥様をからかう

※「作者をからかった・作者を笑った・作者を馬鹿にした」等の意があればよい。

「作者を」の意がない場合は×。「早田の奥様」の有無は不問。

**E【2点】** 漢詩を詠じた。

※ 「詠じた」は「作った・漢詩にした・詠んだ」等でもよい。

※ 「漢詩」が「漢文」となっている場合は**【1点】**。「詩・唐歌・唐の歌・歌・和歌」等となっている場合は×。



問三 傍線部 (イ) の歌を、「人」が誰であるか示しながら現代語訳しなさい。 【6点】

〔該当和歌〕 A 2 波まくら結べる夢のたのしきは B 2 寝ぬにまさると C 2 人は知らずや

〔模範解答〕 A 2 波を枕にするようにして船で寝て見た夢の楽しさは、B 2 寝ずに風景を見るのにもまさると、C 2 依かたさん、あなたは知らないのですか。

〔ポイント〕

A 【2点】波まくら結べる夢のたのしきは ↓ 波を枕にするようにして船で寝て見た夢の楽しさは、

※「波まくら」がそのままになっている場合や、「波まくら」が説明されていない場合は×。

説明が「船で寝る・波の音を聞いて寝る・波打ち際で寝る」等、具体的になっている場合は 【2点】。

説明が「波を枕にして・波に枕して・波に枕を並べて」等、具体的になっていない場合は 【1点】。

※「結べる夢」の訳は「見た夢」でよい。

※「夢の楽しさ」は「夢の素晴らしさ」等でもよい。

B 【2点】寝ぬにまさると ↓ 寝ずに風景を見るのにもまさると、

※「寝ないのにまさる・寝ないより楽しい」等の意があれば 【1点】。

※「寝ないで風景を見るのにまさる・寝ないで景色を見るより楽しい」等の意があれば 【2点】。

C 【2点】人は知らずや ↓ 依かたさん、あなたは知らないのですか。

※「知らないのか」の意があれば 【1点】。

※「依かたは知らないのか」の意があれば 【2点】。

問四 傍線部(ウ)「・・・」は、誰のどのような様子を言っているのか、わかりやすく説明しなさい。 【8点】

「該当傍線部」 (A2) B1歳はまだ幼き人なれば、C3かがやかしうもあらで、D2かか  
ることをも聞こえかはしつ

「模範解答」 A2作者の、B1まだ年若く未熟で、C3よい出来の和歌を詠むことはでき  
なかつたが、D2それなりに、早田の奥様と依かたの詩歌のやり取りに加わることができた様  
子。

「ポイント」

A【2点】作者の、

※BもCもDも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点  
できる。

※「作者」は「筆者」でもよい。

※説明ができていれば「の」は「が・は」等でもよしとする。

B【1点】まだ年若く未熟で、

※「若い・幼い」か、「未熟だ・ものがわからない」等の意があればよしとする。

C【3点】よい出来の和歌を詠むことはできなかったが、

※「和歌は上手でない・よい歌は詠めない」の意が読み取ればよい。

D【2点】それなりに、早田の奥様と依かたの詩歌のやり取りに加わることができた様子。

※「歌のやり取りには入れた」の意が読み取れば【2点】。

※「歌」という語がないが「その場に応じられた」の意がある場合は【1点】。

※「早田の奥様と依かたの」の有無は不問。

問五 傍線部(エ)「・・・」の意味とそこに込められた作者の心情を、わかりやすく説明しなさい。【11点】

「該当傍線部」 心あらば梶なはやめそ

〔模範解答〕

A 6 「(2) 船の漕ぎ手よ、(2) もしあなたにも風流を解する心があるならば、(2) 梶を漕ぐ手を速めてくれるな」という意味で、

B 5 「(2) 船に乗っていつまでもゆつくりと(1) 趣深い(2) 夕映えの景色を見ていたいという、景色を見終えてしまうことを名残惜しく思う心情が込められている。

「ポイント」

A 【6点】「船の漕ぎ手よ、もしあなたにも風流を解する心があるならば、梶を漕ぐ手を速めてくれるな」という意味で、

※「速く漕ぐな」の意があれば【2点】。この意がない場合は×。

※「速く漕ぐな」の意がある上で、それを「船の漕ぎ手」に対して言っていることであるとかかる解釈になっていれば【4点】。

※「速く漕ぐな」の意がある上で、「もし風流を解する心があるなら」の意があれば【4点】。

※「速く漕ぐな」の意がある上で、それを「船の漕ぎ手」に対して言っていることであるとかかる解釈になっており、さらに「もし風流を解する心があるなら」の意があれば【6点】。

B 【5点】船に乗っていつまでもゆつくりと趣深い夕映えの景色を見ていたいという、景色を見終えてしまうことを名残惜しく思う心情が込められている。

※甲Ⅱ「景色を見ていたい」、もしくは、「景色を見終えるのが名残惜しい」の、いずれかの意があれば【2点】。この意がない場合は×。

※甲の意味がある上で、その景色の形容に「夕映えの・夕焼けの」、または、「趣深い・素晴らしい」等があれば【3点】。

※甲の意味がある上で、「船で・船の速度を緩めて」等、「船」の意があれば【4点】。

※甲の意味がある上で、その景色の形容に「夕映えの・夕焼けの」、または、「趣深い・素晴らしい」等があり、さらに「船で・船の速度を緩めて」等、「船」の意があれば【5点】。

第二回阪大本番レベル模試(文) 漢文採点基準(35点)

大問四問一

基準 配点:7点

■形式上の不備

- ・句読点の有無は不問。

■模範解答

A

自分を

B

知っているか知らないかに

C

関係なく

■採点方法 各要素単独採点

要素A 「自分を」の補い 1点

- ・「その人を」「名声を好む者を」も可。
- ・「自分が」も可。
- ・要素Bを「知人(知り合い)であるか知人(知り合い)でないか」とする場合は、「自分の」も可。

要素B 知っているか知らないかに 3点

- ・「知ると知らない」とも可。
- ・「知っているかそうでないか」のような答え方も可。
- ・「知人(知り合い)であるか知人(知り合い)でないか」も可。

要素C 関係なく 3点

- ・「関わらず」「問わず」なども可。

・「知っているか知らないかを」論じることなく「も可」。

\*要素BとCは、「知っているようが知ってまいが」「知る人であってもそうでなくても」のような表現でも可とする。

大問四 問二

基準 配点：7点

■形式上の不備

- ・句点の有無は不問。
- ・文末の「ということ」の有無は不問。また「行為」なども可。
- ・ただし、「どのようなことをいうのか」という設問にそぐわない文末表現（「」から「ので」など）は**全体から1点減点**。

■模範解答

A

自分の知人に頼って

B

詩文をうまく書くことのできる人を

C

探し求めるということ。

要素A 自分の知人に頼って＝3点

- ・「人」をそのまま「人」としているものは**要素A 加点なし**（要素A＝0点）。
- ・「自分の」の有無は問わない。
- ・「知人」は「縁者」「つて」なども可。
- ・「誰か」は**要素A 1点減点**。
- ・「頼って」は、「くしてもらう」のように文末に置いても可。

要素B 詩文をうまく書くことのできる人を＝3点

- ・「人」について具体的な説明がなく、そのまま「人」としているものは**要素B 加点なし**（要素B＝0点）。
- ・「詩文を書くことのできる人」で2点。
- ・「うまく（書くことのできる人）」で1点。は「得意な人」「名人」なども可。

・「詩文」は「詩」「詩歌」または「文」「文章」のみも可とする。

・「詩文」を「歌」「和歌」としているものは要素B加点数なし(要素B＝0点)。

要素C 探し求める＝1点

・「探す」または「求める」の意であれば可。

大問四 問三

■形式上の不備

- ・句点の有無は不問

- ・送り仮名をつけているものは、返り点が正しくても不可(問三＝0点)。

基準 配点：5点

■模範解答

皆由<sub>下</sub>与<sub>二</sub>其人若其子孫<sub>一</sub>有<sub>レ</sub>情故也

■採点方法

- ・解答例のみ正解。部分点は認めない。



大問四 問四

基準 配点：7点

■形式上の不備

- ・句読点の有無は不問

■模範解答

A (1)

どうして

B

その喜びと悲しみに

C

関係がある

A (2)

だろうか、

A (3)

いや、何の関係もない。

■採点方法 各要素単独採点

要素A 「何ぞくん」の反語表現の訳 ≪ 3点

・「どうして(なぜ) つか、いや、( ) ない」 ≪ 3点

・「どうして(なぜ) つか、いや」がなく、「つかない」のみ ≪ 3点

・「どうして(なぜ) つか」のみ ≪ 要素A 1点減点

・「何ぞ」の訳は、同意であれば可(「どういう理由で」「何をもって」なども可)

要素B 「其の喜感に」の訳 ≪ 1点

・「その」の訳出がないものは要素B加点数なし(要素B ≪ 0点)

- ・「その」は、「その人の」「遺族の」「赤の他人の」なども可。
- ・「その」を「路人の」としているものは**要素B加点なし(要素B＝0点)**。
- ・「其の」と漢字表記したのもも許容する。
- ・「喜戚」を「喜戚」のままにしているものは**要素B加点なし(要素B＝0点)**

#### 要素C「与」の訳＝3点

- ・「関係する」「関わる」の意であれば可。
- ・『関与する』も許容する。

基準 配点：9点

■形式上の不備

- ・句読点の有無は問わない。
- ・文末の「こと」の有無は不問。また「行為」なども可。
- ・ただし、「どういうことか」という設問に明らかにそぐわない文末表現（「くから・くので」など）は**全体から1点減点**。
- ・設問は、「自らを欺かざることのみ」の、「自らを欺（く）」とはどういうことか、という設問なので、「ざる」を含めた、「くないこと」「くてはならないこと」のような文末表現にしているものは、**全体から2点減点**。
- ・答案中に「自分（自ら）を欺く（『自分を欺いて・自分を欺き』なども）」という、傍線部とまったく同じ表現を用いているものは**全体から1点減点**。

■模範解答 同意表現可。ニュアンスが合っていれば許容。

A

知らない人からの求めに応じて、

B

その人の吉事や凶事について、

C

自分が感じてもない

D

喜びや悲しみを表した

E

詩文を書くこと。

■採点方法 各要素単独採点

要素A 知らない人からの求めに応じて＝2点

- ・「知らない人に頼まれて」なども可。

- ・「知らない」という意味の表現がないものは**要素A 加点なし (要素A 0点)**
- ・「自分から進んで知らない人のために詩文を書く」わけではないので、「知らない人からの求め・依頼」がなく、単に「知らない人のために」「知らない人を喜ばせるために」のようにしているものは**要素A 1点減点**。

要素B その人の吉事や凶事について 1点

- ・「吉凶の事」の説明がないものは**要素B 加点なし (要素B 0点)**。
- ・そのまま「吉凶の事」としているものは**要素B 加点なし (要素B 0点)**。
- ・「吉事」は「慶事」「幸福」「よいこと」「喜ばしいこと」なども可。
- ・「凶事」は「不幸」「身内の死」なども可。
- ・「〜について」は「〜に際して」「〜に対して」「〜があったときに」なども可。

要素C (自分が) 感じて (も) いない 2点

- ・本心ではない」「思ってもいない」「偽りの」「本心を偽って」なども可とする。
- ・自分の本心(感情)を欺く」は、**要素C 1点減点**。

要素D 喜びや悲しみを表した 2点

- ・「喜び」「悲しみ」を、「感情」のように一般化しているものも可とする。

要素E 詩文を書くこと 2点

- ・「詩文」は「詩」「詩歌」「文」「文章」なども可とする。
- ・「書く」は「作る」「詠む」も可とする。
- ・「歌を詠む(作る)こと」「和歌を詠む(作る)こと」は**要素E 加点なし (要素E 0点)**
- ・「歌う(こと)」「は可とする。

\*要素D・Eは、「喜びや悲しみを詩文に書くこと」のような書き方でも可。